

長射程ミサイルの九州配備に抗議し、撤回を求めるとともに、
長射程ミサイルの製造・配備をやめるよう求める要請書

防衛大臣 中谷 元 様
防衛装備庁長官 石川 武様

3月16日付けで、2025年度末に「敵基地攻撃能力を持つ、12式地对艦誘導弾を九州の湯布院と熊本に先行配備する」との報道がありました。自衛隊のミサイル基地がすでに作られている与那国島や石垣島、宮古島、沖縄島など南西諸島へも順次配備するとしています。

私たちは、九州各地や南西諸島へのミサイル配備の中止と、「敵基地攻撃能力」をそなえるミサイルの開発・製造もおこなわないように、申し入れます。

「中国脅威」や「台湾有事」を理由に、2022年のいわゆる安保3文書で、敵基地攻撃能力が可能とする長射程ミサイルの開発・配備を決めました。九州や沖縄の島々に配備されれば、その射程は中国本土や朝鮮も入り、周辺諸国との緊張を一層高めます。すでに、与那国島・石垣島、宮古島、沖縄島など南西諸島の島々や九州にミサイル基地を建設し、2032年度までに全国10数か所で約130棟の弾薬庫を増設し、さらに海上輸送群の新設など輸送能力を高めることで、アメリカから購入したトマホークも今年度から配備をするとし、「継戦能力」や「攻撃能力」を強化し、戦争体制の構築を急いでいます。

長射程ミサイルは、改良型「12式地对艦ミサイル」だけではなく、「高速滑空弾」「極超音速ミサイル」「潜水艦発射型ミサイル」などの開発・製造も進めています。

3月30日、中谷防衛大臣とアメリカのヘグセス米国防長官の会談が行われました。この中で、中国の脅威に対し、改めて日米同盟の「抑止力」「対処力」の強化は不可欠と確認しました。24日に発足させた、陸海空自衛隊の指揮権を一元指揮監督する「統合作戦司令部」の発足に合わせ、米軍との作戦調整能力をさらに向上させ、日米の一体化を進めています。中谷防衛大臣は、ミサイルの安定供給は「死活的問題」との認識で、艦対空ミサイル「SM6」の共同生産なども示唆しました。

そして、ヘグセス氏は「平和を求めているのであれば、戦争の準備をする必要がある」「西太平洋で有事に直面した場合、日本は前線に立つことになる」と、日本へ一層の戦争準備に邁進するように促しています。

アメリカの、対中国包囲網の一翼を担い、軍備拡大にひた走る日本は、ひとたび戦争が起これば最前線に立たされるということです。すでに、南西諸島(12万人)や奄美諸島(10万人)の避難計画が策定されていますが、戦争が起これば制空権や制海権を奪われれば、このような避難計画は荒唐無稽というほかありません。

そもそも、「敵基地攻撃能力」の保有、日米の軍事的一体化、そしてそのための兵器の配備と開発は政府が言う「専守防衛」の範囲を超える憲法違反であり、東アジアの緊張を激化し平和を脅かすものです。「抑止力」論が破たんをしているのは、ウクライナ戦争を見れば明らかです。

市民が安全に安心して暮らすには、軍備の拡張ではなく、対話による平和外交しか道はありません。以上の理由から、私たちは以下のことを強く要請します。

①九州や南西諸島の島々に「敵基地攻撃能力」が可能な長射程ミサイルの配備をやめること。

②憲法にも違反し、東アジアの緊張を高める「敵基地攻撃」ができるミサイルの製造・開発をやめること。

不戦へのネットワーク
連絡先:名古屋市中村区那古野 1-44-17 嶋田ビル2階